

【投稿】「品格」なき首相の末路

会員 目黒泰一郎

今週の直言「『ポスト菅、内閣の役割』(遠藤浩一理事)の中に、「策士策に溺れる」という表現がありました。菅直人首相の今回の失態は、まさにそういうことであろうと思いますが、私は異なる一面を見る思いもしました。すなわち、「品格、品性」の尊重ということを知らずに生きてきた人物の限界です。首相という、国家を代表する要職にある者に求められる品格、品性、あるいはそのような立場にある者が保持すべき^{きようじ}矜持というものがあるということ、それを彼のみならず、その周辺も知らなかったということでありましょう。

一日も早い退陣を切望していた私としては、内閣不信任案否決の翌日の菅首相の満面の笑みを見て、思わず快哉を叫びました。彼は勝ったつもりかもしれないが、実は敗れた。これで彼は人心を失う、これで失脚すると。

どのような形で彼が首相の座を去ることになるか、なかなか思い描けずにおりました。ですから、この決着の形には(まだ油断はなりません)大いなるもののご意志すら感じる次第です。久々に痛快です。